

授業コード	14001	授業題目	学校教育論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	火1
担当教員名	神山正弘			担当教員所属	学校教育専修		
担当教員電話	内			担当教員 E-Mail			
授業テーマと目的	現代学校の課題を実践的、理論的に解明することを目的とする。						
授業計画	子どもと社会。学校教育の制度とその経営。教育課程の編成。教育システムの改革。これらを内外の動向を紹介しながら解説する。						
達成目標(達成水準)							
授業時間外の学習							
教科書・参考書							
成績評価の基準と方法							

授業コード	14002	授業題目	学校経営論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	火2
担当教員名	平井貴美代			担当教員所属	学校教育専修		
担当教員電話	844-8463			担当教員E-Mail			
授業テーマと目的	学校の経営過程や組織的特性に関する基本的事項について学習するとともに、開かれた学校づくりや学級崩壊など、最近とくに話題となっている問題についてアプローチするための視点や方法を検討する。						
授業計画	テキストの各章を分担して講読し、それに関わる実践上の課題を出し合う 1 オリエンテーション 2 プレゼンテーション用レポート作成のための演習 3～14 テキストの講読 15 学校経営論の授業をふりかえって(まとめ)						
達成目標(達成水準)	1 学校の経営過程や組織的特性に関する基本的事項を理解することができる 2 学校教育の諸側面について経営的・組織的観点から分析することの意義を知ることができる						
授業時間外の学習	テキストの分担箇所についてレポートを作成し、発表の準備をする 授業で扱うテキストを予め読んでおき、疑問点などを整理しておく						
教科書・参考書	小島弘道編著『学校教育の基礎知識[改訂版]』(協同出版、2002年)						
成績評価の基準と方法	成績評価は、授業中に行う発表内容や授業への参加状況から総合的に判断します						

授業コード	14004	授業題目	学習指導論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	2 学期	曜日・時限	金 1
担当教員名	馬場園陽一			担当教員所属	学校教育専修		
担当教員電話	088-844-8438			担当教員 E-Mail	babazono@cc.kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	<p>学習指導に関する教育心理学の理論的研究を紹介し、学習指導への実践的アプローチを試みる。 本年度は指導と評価の一体化を図るための教育評価の方法について探る。</p>						
授業計画	<p>①教育評価に関する理論的見解や教育実践に役立つ新しい教育評価の方法について紹介する。 ②受講生が自ら教育評価や学習指導に関する研究テーマを設定し、発表し、討論を行う。</p>						
達成目標(達成水準)	<p>自ら学ぶ意欲や確かな学力の育成において、指導と評価の一体化を図る授業づくりがいかに大切であるかを認識するとともに、その評価の方法についての技能を身につけることができるようになる。</p>						
授業時間外の学習	<p>自分の設定したテーマにしたがって調べ学習が求められるので、授業時間外の学習の時間がかかり必要である。</p>						
教科書・参考書	<p>特に指定していない。</p>						
成績評価の基準と方法	<p>出席回数とレポート作成、発表を総合して評価する。</p>						

授業コード	14005	授業題目	教育相談論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	集中
担当教員名	丹羽洋子			担当教員所属	学校教育専修		
担当教員電話				担当教員 E-Mail			
授業テーマと目的	教育相談の心理学的基礎となる学校カウンセリング心理学の立場から、問題にアプローチする。						
授業計画	ロジャースの教育の3大原則にもとづいた問題ごとの子ども理解の仕方やそれに対する学校現場で使えるカウンセリングテクニックについて論じる。						
達成目標(達成水準)	子どもの心身の健康をより促進するかかわり方や、学校適応への回復を支援する実践的な力を獲得する。						
授業時間外の学習							
教科書・参考書							
成績評価の基準と方法							

授業コード	14006	授業題目	情報演習 I			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	集中	曜日・時限	
担当教員名	裏垣 博			担当教員所属	技術教育専修		
担当教員電話	8408			担当教員 E-Mail	uragaki@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	高度情報化社会に積極的に対応できる情報処理の基礎能力を身に付けた教員の養成を目的とする。						
授業計画	コンピュータとソフトウェアの基本操作ならびにネットワークの利用方法に関する演習を行う。Windowsの基礎、電子メール、文書処理及び表計算などよく利用される機能の学習に重点を置く。						
達成目標(達成水準)	授業計画に掲げた内容について、習熟する。						
授業時間外の学習	コンピュータを有効に活用するために、課外時間や自宅での学習を積極的に行う必要がある。						
教科書・参考書	授業時に紹介する。必要に応じてプリントを配布する。						
成績評価の基準と方法	出席状況を含む平常点とレポートを考慮して総合的に評価する。						

授業コード	14007	授業題目	情報演習Ⅱ			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	金2
担当教員名	普喜 満生			担当教員所属	理科教育専修		
担当教員電話	8420			担当教員 E-Mail	fuki@s.kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	コンピュータの活用能力、情報処理に関する総合力を身につけることを目的として、講義と演習を行う。						
授業計画	ネットワークの設定およびその基礎知識の習得、メールやWebの利用、ホームページの作成、各種ソフトウェアの活用などである。						
達成目標(達成水準)	ある程度習熟した人を対象に、技能の修得に加え情報化社会の課題や情報リテラシ教育についても一緒に考える。						
授業時間外の学習	自前のノートパソコンを携行し、インターネットなども利用するとよい。						
教科書・参考書	特にないが、資料・プリント等を配布する。下記URLも参照のこと。 http://home.s.kochi-u.ac.jp/~fuki/H18/joho-in2.html						
成績評価の基準と方法	授業態度とレポートで評価する。						

授業コード	14503	授業題目	社会科教育特論II			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	火4
担当教員名	藤田詠司			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	8376			担当教員E-Mail	efujita@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	外国の社会認識教育の検討を通して、自身の社会認識教育観を再構築する						
授業計画	米国の社会認識教育の理論と実践、英国の社会認識教育の理論と実践、ドイツの社会認識教育の理論と実践それぞれについて、特に学習内容構成方法の観点から概観する。そのことにもとづいて、それらの国の社会認識教育の理論と実践を、わが国のものと比較検討する。						
達成目標(達成水準)	米英独の社会認識教育の特徴を説明することができる。それらを踏まえながら、望ましい社会認識教育のあり方について自身の考えを主張することができる。						
授業時間外の学習	事前に配布する資料を熟読する。授業中に適宜課す課題を行う。						
教科書・参考書	本授業のテーマにかかわる、全国社会科教育学会『社会科研究』等の学会誌に掲載された論文						
成績評価の基準と方法	授業への出席状況を40%、期末に課すレポートを60%で評価する。レポートは、上記の達成水準にもとづいて評価する。						

授業コード	14504	授業題目	社会科教育特論演習II		単位数	2	
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	火4
担当教員名	藤田詠司		担当教員所属	社会科教育専修			
担当教員電話	8376		担当教員E-Mail	efujita@kochi-u.ac.jp			
授業テーマと目的	社会科授業実践に有効に機能する学習内容観を確立する。						
授業計画	学会誌等で公表されている概念的知識の習得や価値判断・意思決定能力の育成をめざした社会科授業構成論について、知識および学習者の発達の特性に留意しながら学習内容構成方法の観点から考察する。受講生が分担して報告し、全受講者によるディスカッション形式で行う。						
達成目標(達成水準)	社会科の学習内容となりうる知識の種類と特性を説明することができる。社会科の目標と学習者の発達特性に照らし合わせて、望ましい学習内容構成のあり方を主張することができる。						
授業時間外の学習	事前に配布する資料を熟読する。不明な事項等について調べる。						
教科書・参考書	本授業のテーマにかかわる、全国社会科教育学会『社会科研究』等の学会誌に掲載された論文						
成績評価の基準と方法	分担報告内容を40%、ディスカッションへの参加状況を60%で評価する。全体として、上記達成水準にもとづいて評価する。						

授業コード	14511	授業題目	日本史学特論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	火5
担当教員名	市村 高男			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	8468			担当教員 E-Mail	ichimura@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	日本中世の都市・流通史研究。その視点や方法論について学ぶことを目的とする。						
授業計画	日本中世の都市・流通史に関する基本的文献の購読をする。						
達成目標(達成水準)	日本中世の都市・流通史に関する研究状況をきちんと把握し、その成果と課題が把握できていること、そして自分の独自の考え方が出来るようになること。						
授業時間外の学習	史跡や発掘現場の見学なども行う。						
教科書・参考書	授業の進捗状況を見て適宜紹介する。						
成績評価の基準と方法	出欠と日常的な学習活動、およびレポートによる。						

授業コード	14512	授業題目	日本史学特論演習			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	火5
担当教員名	市村 高男			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	8468			担当教員 E-Mail	ichimura@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	中世土佐の都市・流通史研究。都市・流通史に関する文書・記録を購読し、史料操作や分析方法を学ぶことを目的とする。						
授業計画	日本土佐の文書・記録の中から、都市・流通史に関する史料を抽出し、購読する。						
達成目標(達成水準)	中世の文書・記録の読み込みがきちんとできること、そこで読みとって史実をもとに歴史像が組み立てられること。						
授業時間外の学習	史跡や発掘現場の見学なども行う。						
教科書・参考書	授業の進捗状況を見て適宜紹介する。						
成績評価の基準と方法	出欠と日常的な学習活動、およびレポートによる。						

授業コード	14513	授業題目	西洋史学特論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	木3
担当教員名	柳川平太郎			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	844-8375			担当教員E-Mail			
授業テーマと目的	西洋中近世史・都市史に関する講義を行う。今年度は西洋中世都市を扱い、特に成立史やギルドの構造を中心に、当該分野に関する研究史と諸学説の比較検討を試みる。主として、ベルギーやドイツの都市を取り上げる予定。講義形式で、必要に応じてビデオ映像資料を用いる。						
授業計画	1. 問題の所在、2. 前提、3-5. ピレンヌ学説、6-10. 中世都市の成立過程、11-14. ギルド						
達成目標(達成水準)	西洋中世都市に関する古典学説として、ピレンヌ及びブラーニッツの学説の意義を理解する。また、西洋中世都市の特質をマックス・ウェーバーの都市類型論を手がかりとして把握することを目標とする。						
授業時間外の学習	レポートを課すほか、適宜参考文献の検索・検討を指示する。						
参考書	資料プリントを配布するほか、ウエーバー『都市の類型学』(創文社)を使用する。						
成績評価の基準と方法	出席点と課題レポートをもって、半々に評価する。						

授業コード	14514	授業題目	西洋史学特論演習			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	水1
担当教員名	柳川平太郎			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	844-8375			担当教員E-Mail			
授業テーマと目的	西洋近世史・都市に関する原書講読の演習。今年度はイギリス東インド会社の史料を講読する。						
授業計画	1-3. 必要文献及び関連文献の検索、4-5. テキスト及び著者に関する研究、7以降-史料講読						
達成目標(達成水準)	東インド会社編纂史料を素材に、第一に英語文献の基本的講読法、第二に特殊用語及び同時代用語の調べ方、に習熟し、自力で史料解析を行う方法を会得する。						
授業時間外の学習	毎時、原典の精読と当該訳文の作成をしっかりと準備すること。相当量の予習と資料プリントの事前準備を必要とする。						
教科書・参考書	授業時に検索・決定し、指示を行う。毎回当該原典プリントコピーと中型及び大型辞典を携帯持参すること。						
成績評価の基準と方法	授業時の英文原典読解能力の成長度を持って評価点とする。						

授業コード	14515	授業題目	東洋史学特論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	金3
担当教員名	遠藤隆俊			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8902			担当教員 E-Mail	endou@cc.kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	東洋史とりわけ中国の歴史について、社会史の視点から講義する。 あわせて小、中、高校の社会科(歴史)に必要な知識と技術を身につける。						
授業計画	第1回:ガイダンス、第2~3回:中国社会史の方法と史料、第4~14回:中国宗族史研究 第15回:まとめ						
達成目標(達成水準)	中国社会史の方法と史料について理解をする。 東洋史、世界史について通史的な見方ができる。						
授業時間外の学習	事前にテキストを読んでくる。						
教科書・参考書	遠藤隆俊『族譜および書簡、筆記史料から見た宋代の宗族と地域社会に関する動態的研究』						
成績評価の基準と方法	出席状況30%、レポート70%。レポートは内容の整理がうまくできているかと、自分なりの論点が矛盾なく論じられているかどうかを見る。						

授業コード	14516	授業題目	東洋史学特論演習			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	金3
担当教員名	遠藤隆俊			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8902			担当教員 E-Mail	endou@cc.kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	中国史の文献および著書、論文を読解、翻訳し、発表する。 東洋史の研究に必要な知識と史料読解の技術を習得する。						
授業計画	第1回:ガイダンス、第2～15回:文献史料の読解と翻訳、発表。						
達成目標(達成水準)	漢文の原文書について、正しい翻訳文を作成する。 日本語の著書、論文を、正しく読解、評価する。						
授業時間外の学習	事前にテキストを読み、翻訳、発表する。						
教科書・参考書	清末アヘン戦争関係史料						
成績評価の基準と方法	毎回の出席状況60%、レジュメ資料の正確さ40%。						

授業コード	14521	授業題目	地理学特論 I			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1 学期	曜日・時限	水 2
担当教員名	岡田俊裕			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8373			担当教員 E-Mail	toshihiro@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	近現代日本の地理学史・地理教育史を検討し、戦後に継承し発展した課題と視点、方法論について講義する。						
授業計画	近現代日本の地理学史・地理教育史を概観した後、小田内通敏(1875-1954)と三沢勝衛(1885-1937)の地理学・地理教育研究について考察する。						
達成目標(達成水準)	近現代日本の地理学史・地理教育史の概要を把握し、小田内通敏と三沢勝衛の地理学・地理教育研究を論評する。						
授業時間外の学習	教科書・参考書を読む。						
教科書・参考書	岡田俊裕『地理学史 人物と論争』古今書院 2002 年 岡田俊裕『日本地理学史論』古今書院 2000 年 岡田俊裕『近現代日本地理学思想史』古今書院 1992 年						
成績評価の基準と方法	教科書を持ち込んで解答する論述式ペーパーテストの結果による。						

授業コード	14522	授業題目	地理学特論演習 I			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2 学期	曜日・時限	水 2
担当教員名	岡田俊裕			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8373			担当教員 E-Mail	toshihiro@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	地理学・地理教育の主要な文献の講読・演習を通じて、地理学・地理教育の実証的調査研究に関する考え方・方法を修得させる。						
授業計画	三沢勝衛『新地理教育論』(古今書院、1937 年)を講読し、それに基づいて議論する。						
達成目標(達成水準)	三沢勝衛『新地理教育論』の内容を理解したうえで批判的に検討できるようになる。						
授業時間外の学習	文献を読み、内容の要約とコメントを加えたレポートを作成する。						
教科書・参考書	三沢勝衛『新地理教育論』(古今書院、1937 年)						
成績評価の基準と方法	レポートと議論の内容による。						

授業コード	14523	授業題目	地理学特論II			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	木2
担当教員名	藤塚吉浩			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	844-8372			担当教員E-Mail	fujituka@cc.kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	都市地理学研究の近年の動向について購読を行う。なかでも、都市化の動向と関連づけながら、都市内部の機能分化について理解させる。						
授業計画	都市地理学研究の近年の動向に関する文献の購読と、それをもとにした議論により授業を展開する。						
達成目標(達成水準)	都市化の動向と都市内部の機能分化について理解を深めること。						
授業時間外の学習	近年の都市地理学研究に関する文献を収集するとともに、読み進めること。						
教科書・参考書	高橋伸夫編『21世紀の人文地理学展望』古今書院。						
成績評価の基準と方法	随時レポート提出を求め、平常点と合わせて評価する。						

授業コード	14524	授業題目	地理学特論演習II			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	木2
担当教員名	藤塚吉浩			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	844-8372			担当教員E-Mail	fujituka@cc.kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	都市地理学、特に先進資本主義国の都市問題に関する文献の購読と演習を行い、都市地理学研究に関する考え方、方法を履修させる。						
授業計画	先進資本主義国の都市問題に関する文献の購読と、それをもとにした議論により授業を展開する。						
達成目標(達成水準)	都市地理学研究に関する考え方、方法を習得すること。						
授業時間外の学習	都市地理学研究に関する文献を収集するとともに、読み進めること。						
教科書・参考書	成田孝三『転換期の都市と都市圏』地人書房。						
成績評価の基準と方法	随時レポート提出を求め、平常点と合わせて評価する。						

授業コード	14531	授業題目	政治学特論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	月5
担当教員名	松岡信一			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8906			担当教員 E-Mail			
授業テーマと目的	西洋近代政治史ならびに政治思想史を検討し、日本における近現代史研究の基礎となる知識の修得と研究方法の確立を目指す。						
授業計画	J. S. ミル『自由論』を読む。						
達成目標(達成水準)	まず読めるようになること。						
授業時間外の学習	1時間の講義に対し、最低4時間の自学習の必要。						
教科書・参考書	J. S. ミル『自由論』岩波文庫						
成績評価の基準と方法	出席と『自由論』の理解度						

授業コード	14532	授業題目	政治学特論演習			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	月5
担当教員名	松岡信一			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8906			担当教員 E-Mail			
授業テーマと目的	近代日本政治史の研究を課題とし、殊に国民国家形成期の政治及び政治思想に関する原史料の読み方を訓練することを目指す。						
授業計画	福沢諭吉『学問のすすめ』を読む						
達成目標(達成水準)	きちんとレジュメを作成できるようになること。						
授業時間外の学習	1時間の演習に対し、最低5時間の自学習の必要。						
教科書・参考書	福沢諭吉『学問のすすめ』岩波文庫						
成績評価の基準と方法	出席と『学問のすすめ』の理解度						

げ授業コード	14561	授業題目	経済学特論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	金4
担当教員名	廣田 精孝			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8371			担当教員 E-Mail	khirota@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	現代の経済社会における景気変動やインフレーション、雇用・失業問題や環境問題等の動向を、市場経済の競争メカニズムの理論的考察を通じて具体的に探求していく。						
授業計画	戦後の日本経済と世界経済の展開過程を追いながら、「構造改革」・「デフレ不況」・「最近の景気回復」と言われているものの構造的意味を明らかにする。						
達成目標(達成水準)	現実の変化過程を、単に事実を時系列的に追いかけることに終始するのではなく、そこにある意味を理論的掘り下げを伴って実態分析ができるようになること。						
授業時間外の学習	1時間の講義に対し、最低4～5時間の文献や資料の下調べ						
教科書・参考書	二宮厚美『構造改革とデフレ不況』萌文社						
成績評価の基準と方法	出席状況、発言状況およびレポート等の総合評価						

授業コード	14562	授業題目	経済学特論演習			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2 学期	曜日・時限	金4
担当教員名	廣田 精孝			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8371			担当教員 E-Mail	khirota@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	独占論・恐慌論・金融論を基軸にした理論的かつ具体的分析を通じて、現代資本主義経済の構造とその再生産の動態のメカニズムの原理的・体系的な解明を追求する。						
授業計画	現代の「恐慌」「景気変動」の特質を、インフレーションや国際金融等の具体的な理論的知識を踏まえて、究明する。したがって、「ドル危機」や「バブル経済」の問題も、単なる金融現象としてではなく、現代の蓄積構造の問題として、究明する。						
達成目標(達成水準)	「恐慌論」・「金融論」研究の現代的到達水準の基礎が把握できるようになること。						
授業時間外の学習	1時間の講義に対し、最低4～5時間の文献や資料の下調べ						
教科書・参考書	富塚良三編『資本論体系第9巻 恐慌・産業循環』有斐閣						
成績評価の基準と方法	出席状況、発言状況およびレジュメ等の総合評価						

授業コード	14581	授業題目	哲学特論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	月4
担当教員名	原崎道彦			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088(844)8370			担当教員E-Mail	harasaki@cc.kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	ヨーロッパにおける近代の人間像の成立・展開をたどりながら、それが今日なお抱える課題について理解を深める。						
授業計画	哲学とは何か(1回)。ヨーロッパにおける近代の人間像の出現(2回)。社会契約論(3回)。社会契約論以降(3回)。近代の人間像の今日的課題(3回)。日本における近代の人間像の輸入(2回)。まとめ(1回)。						
達成目標(達成水準)	近代の人間像の成立・展開史およびその今日的課題について深く理解すること。						
授業時間外の学習	レポートの作成。						
教科書・参考書	『西洋哲学史の基礎知識』(有斐閣) 岩崎武雄『西洋哲学史』(有斐閣) 柳父章『翻訳後成立事情』(岩波新書)						
成績評価の基準と方法	出席点およびレポート(授業毎に1500字程度の「授業のまとめ+考察」を提出)。						

授業コード	14582	授業題目	哲学特論演習			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	月4
担当教員名	原崎道彦			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088(844)8370			担当教員E-Mail	harasaki@cc.kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	ヨーロッパにおける近代的人間像の原型を示したテキストの講読をおこないながら、あわせて、哲学のテキストを読解するさいのスタイルを習得する。						
授業計画	マキアヴェリの思想の概要(3回)。マキアヴェリ『君主論』の講読(13回)。						
達成目標(達成水準)	哲学のテキストを読みこなしながら、その思想を理解すること。						
授業時間外の学習	講読の予習。						
教科書・参考書	マキアヴェリ『君主論』(岩波文庫)。						
成績評価の基準と方法	出席点と平常点(テキストをどれだけ深く読みこむことができているか?)。						

授業コード	14591	授業題目	法学特論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1	開講時期	1学期	曜日・時限	月6
担当教員名	藤本富一			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088(844)8460			担当教員 E-Mail	tomikazu@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	諸外国の憲法についての講義を行う。学部段階で学んだ日本国憲法に関する知識と融合させることによって、世界における日本国憲法の位置づけやその特色等をより深く理解することを目的とする。また日本の憲法問題を考える際の参考にするために外国の発想法を学ぶことも目的とする。						
授業計画	以下の項目について、英米仏独の状況を学んでゆく(各項目がそれぞれ1回ずつで終わるとは限らない)。 (1)憲法史(2)大統領・国王(3)議会(4)行政部(5)司法部(6)違憲審査制度(7)中央と地方(8)自由権(9)社会権(10)EUの及ぼす影響(英独仏のみ)(11)軍事						
達成目標(達成水準)	主要な自由主義先進国における憲法状況の概略を理解する。						
授業時間外の学習	授業時間以外の学習では到底目標を達成できないので、当然、予習復習で各種の文献に当たって理解を深めていただきたい。文献については相談に応じる。						
教科書・参考書	受講生と相談して決定してゆきたいが、こちらとしては阿部照哉編『比較憲法入門』(有斐閣;1994年)や吉田善明『現代比較憲法論(改訂版)』(敬文堂;1996年)などを考えている。						
成績評価の基準と方法	少人数授業になることが予想されるので、質疑応答を多用してゆきたい。この際の受け答えと出席状況とを総合的に判断して評価する。						

授業コード	14592	授業題目	法学特論演習			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	月6
担当教員名	藤本富一			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088(844)8460			担当教員 E-Mail	tomikazu@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	判例研究を行う。裁判所で争われた具体的な事件を素材として議論することによって、法の生きた姿を知ると同時に、単なる知識の修得にとどまらず法的思考法を身につけることを目指す。						
授業計画	教科書として使用予定の判例集の中から受講者の希望を参考にしながら判例を選定し、担当者を割り当てて報告してもらう。その報告をもとに質疑応答・討論を行う。						
達成目標(達成水準)	法的思考方法を知ること。						
授業時間外の学習	報告担当者が時間外に報告準備をするのは当然であるが、それ以外の受講者も教科書に引用されている参考文献をあらかじめ読んで問題点を把握しておく必要がある。						
教科書・参考書	ジュリスト増刊の『憲法判例百選(1)』および『憲法判例百選(2)』(いずれも有斐閣;2000年)を用いる。						
成績評価の基準と方法	出席状況、報告内容、討論の状況を総合的に判断して評価する。						

授業コード		授業題目	社会科教育実践研究I			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限	火6
担当教員名	藤田詠司			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	8376			担当教員E-Mail	efujita@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	社会科学習内容・授業過程構成について、実践的・理論的に研究する						
授業計画	各種社会科授業構成論の研究成果を踏まえながら、附属学校園での授業を計画し、実施し、反省的に省察し、それらを報告書にまとめる。						
達成目標(達成水準)	各種社会科授業構成論の成果を踏まえた授業計画を作成することができる。実施した授業の効果や意義を理論的に考察することができる。						
授業時間外の学習	授業計画作成のための資料収集、授業計画作成、報告書作成。						
教科書・参考書	本授業のテーマにかかわる、全国社会科教育学会『社会科研究』等の学会誌に掲載された論文						
成績評価の基準と方法	授業計画を40%、報告書を60%で評価する。全体として、上記達成水準にもとづいて評価する。						

授業コード		授業題目	社会科教育実践研究Ⅱ(A)			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	2	開講時期	1学期	曜日・時限	火6
担当教員名	市村, 遠藤, 柳川, 岡田, 藤塚			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8373			担当教員 E-Mail	toshihiro@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	わが国における社会科教育実践史の研究をふまえ、社会諸科学の研究成果に関する研究を通じて、社会科領域の教材内容について、実証的に研究することを指導する。						
授業計画	各自の地理教育教材の開発を指導する。						
達成目標(達成水準)	開発した地理教育教材を整理し、まとめて、公表できるようにする。						
授業時間外の学習	地理教育教材の開発のための調査研究活動を行う。						
教科書・参考書	特にはない。						
成績評価の基準と方法	研究成果をまとめた報告書の内容による。						

授業コード		授業題目	社会科教育実践研究Ⅱ(B)			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	2	開講時期	1学期	曜日・時限	火 6
担当教員名	松岡、廣田、原崎、藤本			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話				担当教員 E-Mail			
授業テーマと目的	わが国における社会科教育実践の研究をふまえ、社会諸科学の研究成果に関する研究を通じて、社会科領域の教材内容について、実証的に研究することを指導する。						
授業計画	各自が設定した実践教育研究が、社会科領域の教材として実践に耐えられるものになるように毎回報告をしてもらい、教員はそれにコメントしていく。						
達成目標(達成水準)	教材を開発する、あるいは工夫する能力を身に付けること。						
授業時間外の学習	1時間の報告に5時間以上の準備が必要。						
教科書・参考書	必要に応じて指摘する。						
成績評価の基準と方法	教育現場で教材として使用できるものを作成したか。						

授業コード		授業題目	社会科教育実践研究 I (長期インターンシップ)		単位数	2
授業種別		履修開始年次	1	開講時期	1 学期	曜日・時限
担当教員名	市村・遠藤・岡田・柳川・藤塚・松岡・廣田・ 原崎・藤本・藤田		担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話			担当教員 E-Mail			
授業テーマと目的	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと実践的な課題研究テーマの基盤を形成する。					
授業計画	教材開発、学級経営、児童生徒の観察、子供とのふれあいにもとづく単元計画作成、または LD、ADHD、不登校、乳幼児等子供の観察にもとづく実習計画作成を行う。					
達成目標(達成水準)	附属校園等において、各人が設定したテーマについて単元計画または実習計画を作成し、実践的な研究の基盤を形成することが出来る。					
授業時間外の学習	単元計画または実習計画の作成等。					
教科書・参考書	随時指示する。					
成績評価の基準と方法	単元計画または実習計画の内容、計画作成への取り組みなどをふまえ、実習校指導担当者と協議の上総合的に判断する。					

授業コード		授業題目	社会科学教育実践研究Ⅱ(長期インターンシップ)		単位数	2
授業種別		履修開始年次	1	開講時期	2学期	曜日・時限
担当教員名	市村・遠藤・岡田・柳川・藤塚・松岡・廣田・ 原崎・藤本・藤田		担当教員所属	社会科学教育専修		
担当教員電話			担当教員 E-Mail			
授業テーマと目的	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。					
授業計画	単元計画の実施、研究会への参加、公開研究授業、または事例研究会への参加、ケース参加の実施を行い、結果を関連分野の研究方法にもとづき省察する。					
達成目標(達成水準)	各人が設定したテーマについて単元計画あるいは実習計画にもとづいて公開研究授業または事例研究等を実施し、結果を関連分野の研究方法にもとづいて省察することができる。					
授業時間外の学習	公開研究授業または事例研究等の準備。					
教科書・参考書	随時指示する。					
成績評価の基準と方法	単元計画または実習計画の実施、公開研究授業、事例研究会等への取り組み、報告書などをふまえて、実習校指導担当者との協議の上総合的に判断する。					

授業コード		授業題目	課題研究(社会 A)		単位数	4
授業種別		履修開始年次	2	開講時期	1, 2 学期	曜日・時限
担当教員名	市村, 遠藤, 岡田		担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話	088-844-8373		担当教員 E-Mail	toshihiro@kochi-u.ac.jp		
授業テーマと目的	各自の研究課題を設定して、その研究計画に従って高度な専門的知識の育成をはかるとともに、院生自らが主体的に研究する能力を発揮し、研究内容の集大成を目指すよう指導する。					
授業計画	1年を通じ、各自の研究の推進を個別に随時指導する。					
達成目標(達成水準)	学位論文と認められる内容の論文を作成する。					
授業時間外の学習	随時行う。					
教科書・参考書	特にはない。					
成績評価の基準と方法	修士論文の内容と口頭試問の結果による。					

授業コード		授業題目	課題研究(社会B)			単位数	4
授業種別		履修開始年次	2	開講時期	1, 2 学期	曜日・時限	
担当教員名	松岡、廣田、原崎、藤本			担当教員所属	社会科教育専修		
担当教員電話				担当教員 E-Mail			
授業テーマと目的	各自の研究課題を設定して、その研究計画に従って高度な専門的知識の育成をはかると共に、院生らが主体的に研究する能力を開発し、研究内容の集大成を目指すように指導する。						
授業計画	毎回、各自が設定した研究課題にそった報告をしてもらい、教員はそれにコメントを加えるという方法を採用し、最終的に修士論文として仕上げる。						
達成目標(達成水準)	何のためにこの研究をするのかという問題意識を明確にさせる。資料を正確に読む。						
授業時間外の学習	1時間の発表に10時間以上の準備が必要。						
教科書・参考書	その都度指摘する。						
成績評価の基準と方法	問題意識を明確にしているか。資料を正確に読んでいるか。						